第36号
2018/05

PVかながわ ニュースレター

Column

「マイ電力」に想うこと
～朝日新聞連載への雑感～

去年の今頃、朝日新聞に載った震災からの復興の中で「マイ電力」というシリーズがあったのを覚えている人達も多いのではないだろうか。私はここで、それを題材にして自分の思う事を書いてみたい。その内容は①震災の避難所や慰霊碑への太陽光パネルの寄付②ソーラーシェアリング③電力会社の主張する「空き容量ゼロ」である。

太陽光パネルの無償提供を思い立った人が売名行為と受け取られるとか、訪問販売と勘違いされはしまいかと計画の当初心配していたところ、結果は迷惑どころか大歓迎を受けたそうで、被災者の感謝の気持ちや交流の深まりは今でも続いているそうである。支援側の体制さえしっかりしていればうまく行くという典型で「つながり・ぬくもりプロジェクト」と呼ばれている。

小泉純一郎元首相他2名の首相経験者が千葉の匝瑳市を訪れた記事がある。首相の時に原子力発電を推進した元首相が「過ちを改めて」原発なしに自然エネルギーでやっていけるという旗を振り出したのだ。この時小泉氏（当時75）は、「太陽光が多すぎると植物の生育のじゃまになる、とは初めて知った」と言った。氏は原発即時ゼロや自然エネルギー推進で100回を超える講演をこなしている。

ソーラーシェアリングの導入で幾つかの利点が証明されているが、最も直接的なメリットとして：

1. 農業収入に加えた売電収入で農家の経営が安定する。
2. 若者が都会から農村に帰ってきて後継者問題が解決される。
3. 地域分散型の経済構造への転換が出来る、等がある。

大手電力10社が再生エネ設備の送電線への接続制限をし始めているが、実は送電線にはまだ余裕がある。要は、まだ稼働していない原子力発電所からの送電を優先して容量を計算している為、再生エネの発電事業者に辛く当たっているだけのことである。

これらを記事を通して、正しいと考えることは信念を持って進むべしと思う一方で、その根幹の情報が正確でなければ、大多数にとって好ましくない主張をしてしまう可能性もあるのではないかと感じた。太陽光発電の普及は正義であると信じるが、普及推進名目での政治利用の可能性や投機目的のメガソーラーが森林を伐採して進めることについては考えさせられる。常にバランスを意識しながら、まずは、「マイ電力」を「マイ発電」で賄う足元の自給自足を実現維持しながら、社会的に価値があると信じられる再生可能エネルギーの普及に少しでも貢献できればと思う。（佐藤記）

世話人から

連絡事項

6/17(日)に「太陽光発電所長大集合イベント2018」を開催予定。詳しくは以下参照。
http://www.greenenergy.jp/2754

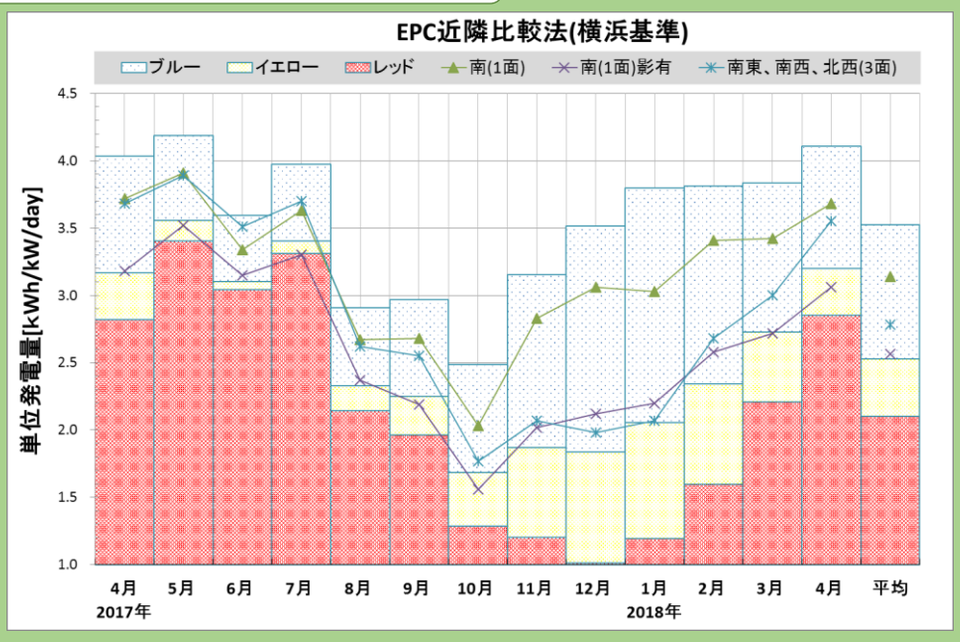
今後の予定

2018年6月1日(金)、3日(土)
「横浜開港祭2018」
会場：臨港パーク
時間：10:30～16:00

2018年8月2日（木）
「図書館夏休み教室
ソーラーバッタを作ろう！」
会場：横浜市泉図書館
時間：詳細は別途打合

2018年8月8日（水）
「図書館夏休み教室
ソーラーバッタを作ろう！」
会場：横浜市中図書館
時間：詳細は別途打合

今月の単位発電量！



気象庁によると4月の天候は、「日本付近は寒気が南下しにくく、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、北日本から西日本にかけては気温が高く、東・西日本はかなり高くなった。特に、21 日と22 日は南から高気圧に覆われて気温が上昇し、46 地点で4月の日最高気温の記録を更新した。また、低気圧と高気圧が交互に通過して全国的に概ね数日の周期で天気が変化したが、移動性高気圧に覆われやすかったため日照時間は多かった。一方、14 日から15 日と24 日から25 日にかけて低気圧が発達しながら通過したため、全国的に天気が崩れ大雨となった所もあった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドが続く場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。